

【学校教育目標】
郷土に根ざした
健全な児童の育成
【めざす学校像】
みんなの笑顔があふれる
周布小学校
【めざす子ども像】
学ぶ子
育つ子 進む子



浜田市立周布小学校
浜田市周布町463-3
電話 0855-27-1006
FAX 0855-27-4724

令和五年度 お世話になりました

昨年四月八日に始まった今年度も、間もなく終わります。保護者の皆さん、地域の皆さんには、たくさんご協力ご支援をいただきました。改めてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。令和六年度も引き続きよろしくお願いします。

今年度は新型コロナウイルス感染症が五類扱いになったものの、その他の感染症も含め、何度か学級閉鎖や学校閉鎖を行いました。そんな中でも周布っ子たちは基本的に元氣一杯でした。先日三十九名の卒業生を送り出しました。卒業証書授与式で、卒業生に贈った言葉を紹介します。

【夢を叶える】
卒業文集に素敵な夢が綴られていた。ひとりひとりの夢が叶った未来であることを祈っている。夢はただ見ているだけでは叶わない。夢を叶えるために自分がすべきことをしつかり考え、一生懸命に取り組むこと。

【十八歳成人の話】
入学までの六年間を家や



保育園等で過ごし、小学校で六年間学習し、次の六年間で「大人」として扱われることになる。夢を叶える努力をしながら立派な大人としての考え方や行動を身につけてほしい。

小学校六年間で学んだこと、身につけたことをさらに伸ばして、中学校でも活躍してくれることと思います。

【4月の主な行事】

- 1日(月) 新クラス発表(10:30)
- 8日(月) 着任式・始業式
- 9日(火) 入学式
- 12日(金) PTA 評議員会
- 18日(木) 全国学力調査(6年生)
- 20日(土) 学習公開日・PTA 総会
- 22日(月) 20日の振替休業日
- 23日(火) 尿検査
- 25日(木) 耳鼻科健診
- 29日(月) 昭和の日

※詳細については学年だより、学級だより等でお知らせします。

式では卒業生の返事が素晴らしい。卒業証書を受け取る表情もキラッと素敵でした。

式に出席しない一年生から四年生のお祝いの言葉、在校生の代表として出席した五年生の贈る言葉、そしてそれに応える卒業生。どれも素晴らしい式となりました。

六年間の思い出を胸に中学生になっても活躍を期待しています。

在校生も周布小学校のよい伝統をしつかりと引き継いで、さらにすてきな周布小学校となるように頑張ってくれることと思っています。



学校評価について

例年、保護者の皆さん、児童、教職員で評価アンケートを行い、それを「学校評議員の皆さんに見ていただき、コメントをいただきたいです。いくつかピックアップして紹介します。

【友達を大切にする】

教職員、児童、保護者、全て高評価でした。友達のとらえが、「自分自身にとっても近い存在」という狭いものではなく、学級全体、周囲の人みんなを大切にするという意識に高めていきたいものです。

このことについては「丁寧な言葉遣い」が大切と考えます。特に授業において「正しい言葉で会話をすること」…まだまだ指導の余地が大きいです。

【気持ちのよいあいさつ・返事をする】

児童のとらえと教職員、保護者のとらえに差がありました。大人と子どもの間に評価の開きがあったという

うことでしょうか。

あいさつについてはPTAの登校指導ノートにも、「元気がない」「声が小さい」というコメントがたびたび書かれています。地域の見守り隊の皆さんからいただくさんお声がけいたしたいですが、朝のあいさつはなかなかのようです。下校時には明るく元気よくあいさつできる子もたくさんいると伺っています。

やはり「相手に届くあいさつ」が大切ですね。引き続き、全ての大人で声掛けをお願いします。

【決まりを守る】

家庭ではしっかり守っている子どもが多いのでしょうか。学校生活上目立って決まりが守れない児童が気になります。

登下校中の交通ルールについても、危険な歩き方をしているという報告をよく受けます。その都度学校でも指導します

が、ご家庭でもことあるごとにご指導をお願いします。



学習成果発表会



学校の様子



ふれあい集会



ミシン実習



学用品譲渡会

◆「ねえねえ、見とって！」と子どもがよく言う。かつては「見て見て！」だった気がする。「見て」は一瞬だが、「見とって」は一定の間が必要である◆見るだけではだめだし、見とくだけでもダメなのである。そこには褒めたり認めたりという言葉がセットされる必要がある◆こんなちよつとしたことを繰り返しながら、承認欲求を満たし、自己肯定感を高めているのである。自己肯定感は常に高くないのもいい。「そこそこ」でいいのだ◆そこそこな自分、そう悪くはない自分自身を感じることであれば機嫌よくいられるのである◆そんなことは大人は皆わかってはいるはずなのである。だがわかっていても難しいことは多い。大人はやっているつもりでも欲求がそれを超えていることも多々ある◆この囲み記事や学校だよりには時々反応してくださる方がいる。そこで話題にしていたことが書き手の自己肯定感を高める◆子どもはもちろん、大人も誰かに認めてもらいたいのである。誰かとは自分ではない、周りの誰か（周囲他者）のことである◆